

9 看護局業務

1) 看護局ミッション

地域住民の健康な生活を支え、地域に根ざし信頼される看護を提供します。

2) 看護局ビジョン

(1) 信頼される医療の提供

患者さん、地域の方にとって信頼される安心な医療を提供するとともに、患者さん中心の看護を探求します。

(2) 円滑な組織運営

組織は人なりという考え方立ち、組織人として期待される責務を果たすという信頼関係を基盤に、チーム医療や業務改善を推進して、円滑な組織運営の共創に努めます。

(3) 自律した看護師の育成

相互に人を大切にし、共に育つようキャリア形成を支援し、主体的に学び行動する自律した看護師の育成を目指します。

(4) ワーク・ライフ・バランスの促進

仕事と生活を両立して働き続けられる環境を築き、良質な人材を確保して、質の高い安定した看護の提供につなげます。

3) 令和6年度看護局目標

(1) 安全で安心な看護の提供

(2) 円滑な病床管理

(3) 教育体制の充実

(4) 魅力ある職場環境づくり

4) 令和6年度看護局目標評価

(1) 安全で安心な看護の提供

質の高い高齢者看護の提供のために、多職種と連携し、専門チームによる回診やカンファレンスを充実させリンクナースが中心となり機能低下の予防に取り組んだ。その中でもスキンテア予防対策を強化した結果、医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）発生率は低下した。

看護ケア データ

	令和5年度	令和6年度
嚥下スクリーニング実施率	96.9%	91%
身体拘束実施率		55.4%*1
MDRPU 発生率	1.5%	0.8%
手指消毒の使用量*2	11.2m l	12.9m l

* 1 身体拘束実施率：認知症患者身体拘束率に基づく値

* 2 病棟への手指消毒薬払い出し量／延べ入院患者数

(2) 円滑な病床管理

入院前から退院を見据えた看護システムを確立するため、入退院リンクナースが中心となって入院時に患者・家族の意向等を確認して退院先を明確化にして退院支援に取り組んだ。また、ベッドコントロール担当および看護科長が中心となり、柔軟なリリーフ体制をとりながら、円滑に入院を受け入れた。

(3) 教育体制の充実

「共育」「共創」の推進・定着のために、足柄式教育研修を開催し7割の看護師が参加した。監査を年2回行い、定着における課題に取り組んだ。

特定行為に係る看護師の育成をすすめると共に、特定行為研修指定教育施設として今年度から科目履修生の受け入れを開始した。また、近隣の医療施設や訪問看護ステーションを中心に広報を行い、院内受講生3名（内科目履修生1名）、院外受講生2名の計5名を受け入れた。

特定行為研修修了看護師延べ人数（在籍数）

特定行為	令和4年度	令和5年度	令和6年度
持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	7	9	11
脱水症状に対する輸液による補正	8	10	12
インスリンの投与量の調整	4	6	6
創部ドレーンの抜去	1	1	3
抗けいれん剤の臨時投与	1	1	1
抗精神薬の臨時の投与	1	1	1
抗不安薬の臨時投与	1	1	1
胃ろう・腸ろうカテーテル、胃ろうボタンの交換	1	1	1
膀胱ろうカテーテルの交換	1	1	1
気管カニューレの交換	1	1	1
経口用気管チューブ、経鼻機関チューブの位置確認	1	1	1
侵襲的陽圧換気の設定の変更	1	1	1
人工呼吸器からの離脱	1	1	1
直接動脈穿刺法による採血	1	1	1
橈骨動脈ラインの確保	1	1	1
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与、投与量調整	1	1	1
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	1	1	1

（4）魅力ある職場環境づくり

長時間労働を是正するため、1セクションで夜勤時間を1時間短縮して試行した。多様な働き方を支えるため、夜勤専従勤務の希望を確認して配置した。

また、特定行為研修修了看護師が区別別にチームを編成、院内を横断して特定行為を実施し専門性を発揮した。

5) 令和6年度研修・実習等実績

（1）院内研修実績

<キャリアラダー ステップ研修>

段階	要素	研修名	目的	方法	人数
ステップI	実践	看護過程Ⅰ	看護過程に必要な情報を用いて、アセスメントできる力を養う	講義・GW	7
	管理	メンバーシップ研修	チームの一員としての役割がわかり、メンバーシップを発揮するための能力を養う	講義・GW	7
ステップII	実践	看護過程Ⅱ	根拠に基づいた看護過程の展開ができる力を養う	事例展開・GW	10
	教育	後輩育成Ⅰ	後輩育成のために必要な知識・姿勢を養う	講義・GW	12

段階	要素	研修名	目的	方法	人数
	管理	リーダーシップ研修	リーダーシップ・メンバーシップについて理解を深め、部署での看護を通してリーダーシップを発揮する能力を養う	シャドーイング	11
ステップⅢ	実践	看護過程III	多職種と連携し患者の個別性に合わせた看護展開ができる	事例展開・GW	5
		倫理研修I	看護実践における倫理的問題の解決にむけた基礎的能力を養う	講義・GW	11
	教育	後輩育成II	後輩育成のための自身の教育観を養う	講義・GW	7
	管理	問題解決I	問題解決にむけた基礎的能力を養う	県立病院機構研修 「医療安全」受講	6
ステップIV	実践	倫理研修II	実践における倫理的課題を理解し、解決に向けた対処法を考えられる	県立病院機構研修 「臨床倫理」受講	5
	実践・教育	問題解決II	所属セクションで起きている問題の本質を捉え、問題解決方法を考えられる	県立病院機構研修 「問題解決・リーダーシップ」受講	2
ステップV	教育・管理	問題解決III	マネジメントプロセスを理解し、組織の理念に基づいて組織の目標達成に取り組むことができる	県立病院機構研修 「マネジメント研修」受講	0

<役割研修>

研修名	目的	方法	人数
足柄式教育研修	共育・共創の看護実践のために、足柄式教育体制を理解する	講義・GW	34
教育担当者研修	教育担当者として、セクションの教育計画に基づいた取り組みができる	講義・GW レポート	7
看護科長代理研修	看護科長代理としての役割を踏まえ、自ら考えてセクション運営・病院運営に参画できる	講義・GW レポート・勤務表作成	9

<新採用者研修>

研修名	目的	方法	人数
新採用看護職員採用時研修	足柄上病院の新しい職場への早期適応を図る 専門職業人としての基礎的な知識・技術・態度を学ぶ	講義・演習・GW	7
実務研修	安全な看護実践を目指し、基準手順に沿った知識・技術・態度を習得する	シャドーイング・GW 看護技術演習 看護技術試験	7

研修名	目的	方法	人数
報告・連絡・相談II ～日勤後の看護から学ぶ～	患者の安全・安楽を守るために必要な観察のポイントや看護の視点を学ぶ	実践・振り返り	7
急変時の対応	急変の前兆に気づき、必要な初期対応がわかる	講義・演習	7
3か月目フォローアップ研修	看護実践を振り返り、今後の目標を明確にできる	GW	7

<特定行為研修>

領域名	特定行為区分	特定行為	人数
Aコース 創傷管理領域	創部ドレーン管理 関連	創部ドレーンの抜去	3 (院内2、院外1)
	栄養及び水分管理 に係る 薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 脱水症状に対する輸液による補正	
Bコース 血糖管理領域	血糖コントロール に係る 薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	1 (院外1)
	栄養及び水分管理 に係る 薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 脱水症状に対する輸液による補正	
科目履修コース	創部ドレーン管理 関連	創部ドレーンの抜去	
	血糖コントロール に係る 薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	1 (院内1)

(2) 院外研修参加実績

<神奈川県立病院機構 職員研修等>

コース名	会場	日程	人数
医療安全	がんセンター	5月24日 10月4日	6
臨床倫理	こども医療センター	6月14日 10月18日	5
人材育成	精神医療センター	7月19日 11月22日	2
問題解決・リーダーシップ	循環器呼吸器病センター	6月5日 10月15日	2
新任主任看護師研修	足柄上病院	5月17日 9月27日	1
新任看護科長研修	本部事務局	5月31日	2
看護科長研修	本部事務局	5月10日 9月20日 6月27日 1月24日	1

<長期研修派遣>

受講分野	日程	人数
保健師助産師看護師実習指導者講習会 国際医療福祉大学 小田原キャンパス	9月～11月	1
保健師助産師看護師実習指導者講習会 東海大学看護師キャリア支援センター	9月～12月	1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル 神奈川工科大学看護生涯学習センター	11月～2月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 神奈川工科大学看護生涯学習センター	6月～10月	1
医療安全管理者講習会 神奈川県総合医療会館	10月～1月	1
医療安全管理者講習会 オンライン開催	10月～3月	1

<神奈川県看護協会>

研修名	日程	人数
看護補助者活用推進のための看護管理者研修	7月12日～8月5日 (オンライン) 8月20日(演習)	4
急変の前兆を見逃さない!～リーダーナースのためのフィジカルアセスメント～	11月21日	1
感染リンクナースのための感染管理	7月29・30日	1
「食べる」を支える ～摂食嚥下障害看護のエキスパートから学ぶ誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア～	2025年2月12日	1
高齢者の人生最終段階における意思決定支援～患者・家族のACP～	9月19・20日	1
教育担当者研修Ⅰ～人材育成におけるジレンマ 対応困難な職員への支援～	9月6日	1
看護師ができるChatGPTの活用～対話型AIはここまでできる!～	9月10日 (ハイブリット)	1
小田原支部：新採用者フォローアップ研修 「メンタルヘルス～しなやかな自分をつくるレジリエンス～」	10月12日	7

<日本看護協会>

研修名	日程	人数
研修での学びと実践をつなぐ指導者のための研修(オンライン)	7月10日	1

<公開授業>

研修場所	研修内容	日程	人数
神奈川県立平塚看護大学校	多重課題演習 OSCE	10月15日 12月10日	7 3

<看護職員交流研修>

研修場所	セクション	日程	人数
小田原市立病院	救急外来・救急病棟	10月～3月	1

<その他研修等>

主 催	研 修 名	日 程	人 数
神奈川県立よこはま看護専門学校	実習指導者研修会	8月5日	6
公益財団法人 かながわ健康財団	令和6年度 神奈川県看護職員 認知症対応力向上研修	8月21・24日 9月20日	6
公益財団法人 日本医療機能評価機構	医療メディエーター研修	11月28・29日	2
神奈川ストーマ研究会	第39回神奈川ストーマリハビリテーション 講習会	8月10日	1
一般社団法人 日本運動器科学会	運動器リハビリテーションセラピスト 資格取得研修会	10月22日～ 11月2日	3
事業団体 名古屋大学医学部付属 病院 看護キャリア支援室	第1回看護師特定行為研修指導者講習会	8月10日	1
神奈川県	DMAT 養成研修	1月27～29日	1
神奈川県	DMAT-L 隊員養成研修	6月7・8日	1
日本臨床看護マネジメント学会	「重症度、医療・看護必要度」評価者及 院内指導者研修（オンライン）	6月～9月	1

<業務応援> 計 10 名

応援場所	期間	人 数
神奈川県立がんセンター	2024年7月1日～2025年3月31日	3
神奈川県立がんセンター	2024年10月1日～2025年2月28日	1
神奈川県立がんセンター	2024年10月1日～2025年3月31日	2
神奈川県立がんセンター	2024年11月1日～2025年3月31日	4

(3) 学会参加実績

<学会参加>

学 会 名 (分 野)	開 催 地	開 催 日	人 数
日本地域看護学会第27回学術集会	宮 城	6月29・30日	1
第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	福 岡	8月30・31日	1
第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (オンデマンド)	京 都	9月21・22日	1
第26回日本救急看護学会学術集会	東 京	11月18・19日	1
日本死の臨床研究会年次大会	北海道	10月12・13日	1
第19回医療の質・安全学会学術集会	神奈川	11月29・30日	1

(4) 研修・施設見学等実績

<研修・施設見学等実績>

研修者所属	研修内容	日程	人数
医療法人社団恵生会 上白根病院	セル看護提供方式見学研修	6月18日	6

<インターンシップ>

日程	人数
7月13日	1
8月1日	3
8月5日	6
8月9日	1
2月22日	4
3月8日	3

<採用試験直前説明会オンライン病院説明会>

日程	人数
4月19日	2
3月7日	1

<高校生インターンシップ>

日程	人数
7月29日	6
7月30日	3

<個別説明会>

日程	人数
5月28日	1

<高校生一日看護体験>

日程	人数
7月31日	30

<特定行為研修オンライン説明会>

日程				施設数
7月30日(2回開催)	8月28日	9月27日(2回開催)	10月17日	7

(5) 就職前支援開催実績

対象者	当院の就職内定者(任意参加)
日程	8月8日、3月10日
目的	入職前に職員や新入職者が交流し、職場環境を知ることで、入職に対する不安が軽減する
参加者	第1回 8月8日：7名
内容	1) 就職前交流会(顔合わせ、自己紹介) 2) 学習支援(国家試験対策の紹介など) 3) 病棟体験、院内見学 4) 先輩看護師との座談会 5) 寮見学

(6) 復職支援研修開催実績

対象者	復職を検討している潜在看護師
日程	9月30日：1名
目的	医療や看護の現状を知り、復職を前向きに考える機会とする

(7) 院内行事開催実績

<看護研究・実践報告発表会>

日 時	10月 30日 14:00~15:00
内 容	<p><実践報告></p> <p>1. 腹臥位手術における褥瘡対策 高橋友希子 岡田拓也 (手術室) 片柳 素子 竹下みのり 善波いづみ 昆野真由美</p> <p>2. 療養先決定に難渋した排出期家族への意思決定支援 ～親族の意向が強く反映された事例～ (3A 病棟)</p> <p>3. 専門性を持った看護師の介入により、意思決定支援ができた1事例 ～その人らしい自己決定を支える看護～ 竹下みのり 善波いづみ 昆野真由美 (4A 病棟)</p>
講 評	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部看護学科 教授 谷山 牧 先生

<長期研修発表会>

日程	6月 19日	3月 17日
----	--------	--------

<業務改善報告会>

日 時	内 容
2月 19日 13:30~14:15	<p>1. 地域包括ケア病棟再構築へ 3A 病棟</p> <p>2. 共に育つチームを目指して 4A 病棟</p> <p>3. ベッドの有効活用に向けた取り組み 5A 病棟 褥瘡対策チーム</p> <p>4. 接遇向上に向けての取り組み 接遇向上チーム</p> <p>5. 選ばれる実習病院を目指して 臨床指導者会議</p> <p>6. スキン-テアテンプレートの導入後の現状と今後の課題 褥瘡リンクナース会議</p>

<看護の日週間>

目 的	職員が地域との交流を図り、看護について共に考える機会となる
日 程	5月 14日 (パネル展示期間: 5月 1日~17日)
内 容	<p>1) パネル展示(看護師のやりがい・病院で働く人々のやりがい、心に残っているエピソード)</p> <p>2) 患者給食へ看護の日カード添付</p> <p>3) 看護の日のメッセージ付きパン販売(1日間)</p> <p>4) 来院者の健康チェック(血圧測定)</p>

(8) 令和6年度看護学実習受入実績

10 各種活動報告

1) 医療安全推進活動報告

(1) ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントレポート等の集計・分析、医療安全対策の実施

全報告件数は昨年度同等であるが、レベル3aが127件増え、その多くが褥瘡等皮膚損傷関連の報告であった。令和6年度から褥瘡等皮膚損傷関連の報告も挙げることとなった背景がある。褥瘡発見時点ではレベル2であるが、処置等を行うとレベル3aとなることから、レベル3aの件数増加につながった。褥瘡等皮膚損傷関連の報告数増加の背景には、高齢患者が多いことが挙げられる。褥瘡対策チームとの連携を強化し、褥瘡予防と早期発見に努めた。

当院は高齢者急性期医療を行う病院であり、患者の多くが高齢者であることから、患者誤認防止、転倒・転落防止対策強化、誤嚥・窒息防止対策の徹底に努めた。

報告者別内訳では、医師の報告件数が前年度より121件増え、構成比でも8.1%まで上がった。医師に対し繰り返し報告の必要性を伝えていったことが報告件数の増加につながった。

【神奈川県立病院機構 ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントの分類レベル指標】

区分		内容
ヒヤリ・ハット	レベル0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。
	レベル1	患者への実害はなかった(何らかの影響を与えた可能性は否定できないものも含む)。
	レベル2	処置や治療は行わなかった(患者の観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた)。
	レベル3a a	簡単な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)。
アクシデント	a b	濃厚な処置や治療・検査を要した。
	レベル4	提供した医療または管理に起因し(含む疑い)、患者の生活に影響する予期しなかった若しくは予期していたものを上回る高度の後遺症が残る可能性が生じた場合。
	レベル5	提供した医療または管理に起因し(含む疑い)、予期せず患者が死亡した場合。

① 全体報告数 インシデント・アクシデント年度別報告数の推移

区分	レベル	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ヒヤリ・ハット事例	0	623	1,928	639
	1	1,305		1,306
	2	129	175	217
	3a	6	7	134
	3b	3	2	4
	4	1	0	0
アクシデント	5	0	0	0
	合 計	2,067	2,212	2,300
	レベル0.1発生率 ※1	93.3%	91.7%	84.6%
	レベル2以上発生率 ※2	6.7%	8.3%	15.4%
	入院延べ患者数	57,986	67,080	52,443

※1 レベル0, 1以上報告数／全体数

※2 レベル2以上報告数／全体数

② 報告者別報告件数

事象	①令和5年度		②令和6年度		②-①
	件数	構成比	件数	構成比	
医師	65	3.5%	186	8.1%	121
看護師	1,824	68.7%	1,706	74.2%	-118
薬剤師	69	3.0%	62	2.7%	-7
臨床検査技師	46	4.6%	52	2.3%	6
放射線技師	18	0.7%	18	0.8%	0
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	4	0.7%	26	1.1%	22
管理栄養士	176	18.2%	221	9.6%	45
事務職	10	0.6%	28	1.2%	18
その他	0	0.0%	1	0.0%	1
合 計	2,212	100%	2,300	100%	88

③ 事象別報告件数

事象	①令和5年度		②令和6年度		②-① 件数
	件数	構成比率	件数	構成比率	
指示・情報伝達	45	2.7%	117	5.1%	72
薬剤(処方・与薬・調剤・製剤管理)	558	19.2%	483	21.0%	-75
注射・点滴	198	6.4%	166	7.2%	-32
内服薬	307	11%	286	12.4%	-21
その他	53	2.0%	31	1.3%	-22
輸血	13	0.3%	3	0.1%	-10
治療・処置・診察	124	4.3%	84	3.7%	-40
手術	85	3.1%	57	2.5%	-28
麻酔	2	0.2%	2	0.1%	0
その他治療	2	0.3%	1	0.0%	-1
処置	26	0.3%	15	0.7%	-11
診察	9	0.4%	9	0.4%	0
医療用具(機器)使用管理	30	1.3%	35	1.5%	5
ドレーン・チューブ類使用・管理	421	17.6%	422	18.3%	1
検査	166	10.8%	180	7.8%	14
療養上の場面	679	39.2%	695	30.2%	16
転倒・転落	219	9.0%	177	7.7%	-42
給食・栄養	293	21.5%	298	13.0%	5
その他	167	8.7%	220	9.6%	53
その他	176	4.6%	281	12.2%	105
合 計	2,212	100%	2,300	100%	88

(2) 医療安全対策に係る体制確保のための職員研修実績

	研修区分	対象	内 容	開催回数	参加 延べ人数
1	医療安全研修	全職員	医療事故説明会	1	416
		全職員	院内急変時対応(心肺蘇生・窒息時対応)	6	160
		看護師	CVポート勉強会	1	21
		医師・研修医・看護師・コメディカル	放射線画像診断 初級編	1	37
			放射線画像診断 CT編	1	6
		医師・研修医	CVカテーテル	1	13
		看護補助者	看護補助者研修	2	22
		全職員	除細動器の取り扱いと管理	1	27
		全職員	胃管の管理	1	30
		全職員	臨床病理検討会	1	23
		全職員	チームスキルトレーニング導入の実践	1	280
		全職員	組織倫理の視点から見た医療安全「文化」	1	52
2	医療安全研修 セクション共同開催	全職員	医療安全文化調査	1	20
		全職員	転倒転落予防研修	1	118
		一部対象限定 看護職員 研修医	褥瘡対策研修 大腿骨近位部骨折後のフォローアップ 医療機器安全使用に関する研修 生化学分析装置取り扱い講習会 気管内挿管介助勉強会 インシデント振り返り 病院食試食会 細菌検査の医療安全、細菌検査の検体採取容器と保存 採血手技、輸血実施認証 CT検査における医療安全 アンカーファーストの正しい装着と管理 生理検査室のパニック値 計12研修	12	344
3	医療安全・感染防止研修		医療関連感染予防・管理活動報告参照		
4	事例検討	部署職員	警鐘的意義が大きいと考える事例等の検討	6	
5	採用時研修(オリエンテーション)	転入・新採用・中途採用職員	転入・新採用・中途採用職員の採用時研修	3	56
6	動画視聴研修	全職員	医療安全動画視聴(26コンテンツ)	1	111

(3) 医療安全管理会議（毎月 1 回開催）

医療事故の防止を図ることを目的として、医療事故の状況把握と課題の抽出、医療現場における対応策と徹底、再発防止のための対策等について、審議及び推進を図った。

(4) リスクマネジメント会議（毎月1回開催）

各部署のリスクマネージャーが重点課題や部署課題をふまえた計画を立案し、安全活動に取り組んだ。ワーキンググループ活動では「患者誤認防止対策（与薬関連、書類）」「転倒・転落防止対策」「誤嚥・窒息防止対策」のグループに分かれ、部署・職種横断的に対策に取り組んだ。また、毎月の医療安全ラウンドでは、医療安全上の課題の改善に向けて指導、支援を実施した。

(5) 医療安全推進室カンファレンス（毎週1回開催）

ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントレポート等の事象についてレベルの妥当性を検討し、集計、調査、分析を実施、分析に基づき対策を検討した。また、合併症・有害事象等報告の調査を適宜実施した。医療安全管理会議及びリスクマネジメント会議へ報告、審議事項の提示を行った。

(6) 医療安全推進週間（期間：令和6年11月20日～11月26日）

院内各部署の取り組みとして「日頃の医療安全への取り組み」をテーマに、標語及びポスターにて院内パネル掲示を行った。また、認知症患者への関わり及びロコモチェックについて、外来正面入り口にポスター掲示をした。参画型企画としては、近隣小中学校の児童・生徒による絵画ポスター21作品を約二週間、院内に掲示した。

(7) 医療安全対策における保健医療機関との連携

医療安全対策加算1及び医療安全対策地域連携加算1に関連した施設間の相互評価を実施した。加算1に係る届出を行っている病院（一施設）とは相互に訪問し、安全確保のための業務改善策について情報交換を行った。また、加算2に関わる届け出を行っている病院（二施設）へ訪問し、相互チェックシート及び安全対策の実際について確認し情報共有をした。

(8) 「42の提言」アクションプランの達成に向けた取り組み

神奈川県立病院機構医療安全推進体制に係る外部調査委員会による「42の提言」アクションプランの達成に向け、機構本部開催の医療安全推進会議（4回開催）での検討を通して、以下の内容に取り組んだ。本会議には、医療安全推進室長、副事務局長、医療安全管理者が出席した。

- ①「インフォームド・コンセント委員会等の設置」に対して、「意思決定支援会議」及び「意思決定支援委員会」を設置した。
- ②医療安全ポケットマニュアルの見直しを図り、令和7年4月に第6版を発行した。
- ③チームスキルトレーニング導入にむけ、後期必須研修として外部講師による研修を開催した。
- ④医療安全文化調査を実施した。

2) 医療関連感染予防・管理活動報告

患者、家族、委託を含めた全職員と訪問者に対する感染予防の推進および地域医療機関等と連携し感染症対策に取り組んだ。感染管理室、感染制御チーム(Infection control team : 以下 ICT)、抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship team : 以下 AST)と、感染対策や安全管理に関わる各部門が協働して実践した。

(1) ICT 活動

活動内容	詳細
会議	ICT メンバー(感染管理室長、室長補佐、室員(感染管理認定看護師)、臨床検査技師1名、薬剤師1名、事務職員1名)により1回/週開催し、感染対策に関する具体案を検討、感染対策会議へ審議事項の提示を行った。
ラウンド	会議に引き続き同メンバーにより1回/週(病棟:1回/週、手術室、内視鏡室等:1回/2ヶ月、その他部門:1回以上/年)実施した。感染対策実施状況の把握を行い、改善のためのフィードバックを紙面で行った。
マニュアル整備・改訂	最新のガイドライン等を基に整備、改訂を進めた。 特記事項として、血液培養汚染セット率がガイドラインで適切と示される数値や感染対策向上加算1算定施設の平均値より高い現状を把握したことから、現場での手技の確認とともに、新規に血液培養マニュアルを整備、周知した。以降、血液培養汚染セット率は減少傾向にある。
職員研修	学研eラーニングを活用した研修を実施した。
サーベイランス	・病原体および感染症サーベイランスを継続し、毎日のアウトブレイクモニタリングと薬剤耐性菌検出患者の把握と対応を実施した。 ・今年度導入された感染制御支援システムを活用し、カテーテル関連尿路感染(全病棟に拡大)・中心ライン関連血流感染(全病棟を継続)・手術部位感染(大腸、直腸手術を継続)サーベイランスを継続した。 ・新規に年度途中から、人工呼吸器関連イベントサーベイランス、手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与割合のサーベイランスを開始した。 ・プロセスサーベイランスとして重要な手指衛生は、手指消毒薬使用量とWHO手指衛生5つの瞬間の直接観察法による手指衛生遵守率のサーベイランスを継続した。手指消毒薬は、払出し量による算出に加えて、看護局の各セクションでは個人使用量調査を開始した。 ・針刺し・切創及び皮膚・粘膜汚染サーベイランスを継続した。
職業感染対策	・職員のワクチン接種と抗体価検査結果(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎)、T-SPOT検査結果の情報を感染制御支援システムに集約し、抗体とワクチン接種に関する円滑な管理が可能となった。 ・ガイドラインを基にしたワクチンプログラムに沿って、必要な抗体価検査やワクチン接種を進めた。
院外活動	感染対策向上加算2・3算定病院、高齢者施設等感染症対策向上加算II算定施設に訪問しラウンド・フィードバックを実施した。

(2) AST活動

抗菌薬適正使用推進のため、抗菌薬使用量サーベイランスと広域抗菌薬等の特定抗菌薬使用患者のモニタリング、血液培養陽性患者や薬剤耐性菌検出患者の抗菌薬使用状況の確認と適正使用に向けた支援を実施した。

会議をICTと同メンバーで1回／週開催した。

抗菌薬の適正な使用を目的とした院内研修を実施した。

サーベイランスへの参加状況：JANIS（検査部門）、J-SIPHE

(3) 院内・院外会議

感染対策会議 (1回／月)	病院全体の感染対策の意思決定機関として、医療関連感染予防、感染症発生時の措置及び感染対策について、審議及び推進を行った。
神奈川県立病院 機構関連会議	・感染制御推進会議に感染管理室長、副事務局長が出席し、法人内の感染制御に係る検討・調整が行われた。 ・ワーキンググループ活動が9回実施され、感染管理室員が出席、院内感染対策に係ること、マニュアルの統一化に向けて情報共有・意見交換を行った。
感染対策向上加算に係る合同カンファレンス (4回／年)	感染対策向上加算2・3、外来感染対策向上加算を算定している医療機関等や小田原保健福祉事務所足柄上センター、足柄上医師会が出席し、院内感染対策に関するカンファレンス、新興感染症の発生等を想定した訓練（1回／年）を実施した。

(4) 活動に関する実績

	項目	今年度	前年度	備考
①	血液培養2セット提出率	97.5%	98.3%	
②	特定抗菌薬届出提出率	94.8%	91.9%	
③	バンコマイシン投与に対して、薬物血中濃度を測定された症例の割合	100%	100%	
④	MRSA感染・保菌発生率	0.37	0.23	入院4日目以降の新規MRSA検出患者数／1000延べ入院患者日数
⑤	職員インフルエンザワクチン接種率	84.6%	84%	
⑥	院内感染対策に係る研修受講率	91.9%	90.7%	
⑦	中心ライン関連血流感染発生率	1.03		（使用比0.02）
⑧	カテーテル関連尿路感染発生率	0.99		（使用比0.13）
⑨	感染対策便り発行	12回	12回	

3) クリニカルパス検討会議

令和6年度は58件のパス運用基準の検討・修正を実施した。
パスの使用実績は、1,085件であった。

令和6年度 クリニカルパス使用実績

診療科 名称	パス名称	件数	診療科 名称	パス名称	件数
外科	胃がん	17	総合診 療科	内視鏡的逆行性胆管膵管造影	2
	大腸癌	45		内視鏡的胃粘膜切除・粘膜下層剥離術	14
	鼠経ヘルニア根治術	92		大腸内視鏡・粘膜切除術（1泊2日）	45
	自然気胸	3		大腸内視鏡・粘膜切除術（2泊3日）	27
	乳癌手術	29		腹部血管造影・冠動脈閉塞術	6
	胆囊摘出術	41		ラジオ波焼灼術・経皮エタノール注入 療法・肝生検	1
	虫垂炎手術	14		内視鏡下胃瘻造設・交換術	2
	ストマ閉鎖	5		内視鏡的大腸粘膜剥離術	8
	鎖骨骨折	1		がん化学療法共通	1
整形 外科	大腿骨近位部骨折 観血的整復固定術	82		待機的食道静脈瘤結紮術（EVL）	1
	大腿骨頸部骨折 人工骨頭術	62		大腸癌 S から直腸（ストマなし）	1
	人工股関節置換術（Dall 法）	9		大腸癌 S から直腸（ストマ造設 有 り）金曜入院	1
	人口膝関節置換術	67		大腸癌 上行から下行	1
	橈骨遠位端骨折	16		胆囊摘出術	1
	鎖骨骨折	2		経尿道的前立腺切除術	4
	足関節骨折	15		経尿道的膀胱手術	54
	上肢抜釘術（左右なし）	15		局所麻酔下尿管ステント挿入・交換術	9
	下肢抜釘術（左右なし）	11		腰椎麻酔下尿管ステント挿入・交換術	2
脳神経 外科	腰椎手術（脳神経外科）	4		排尿指導 日帰り	1
	慢性硬膜下血腫当日用	13		前立腺生検	137
	脳血管撮影	2		腎摘出術	5
	手根管症候群手術	5		前立腺全摘出術	2
	頸椎手術（脳神経外科）	1		ウロリフト（経尿道的前立腺吊り上げ 術）	9
	タップテスト	14		TUL（経尿道的尿路結石破碎術）	24
皮膚科	帯状疱疹				
	白内障手術（PEA+IOL）				

4) 災害医療対策室

救急医療の現状については、第3章患者の概況「救急患者取扱状況」を参照。

○院内防災訓練

- ・新規採用者等を対象とした消防訓練及び各セクションの職員が参加する消防訓練、災害対策訓練、止水板設置訓練を実施

○外部訓練・研修参加

- ・令和6年(毎月1回、計12回)神奈川県主催の通信訓練に参加
概要:災害発生時の複数手段(衛星電話、EMIS、MCA無線)での通信訓練
- ・令和6年9月27日~28日 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加
- ・令和6年9月28日 小田原市立病院との合同災害訓練(災害を想定した防災行政通信網を使用した訓練)を実施
- ・令和6年11月23日 ビッグレスキューかながわに参加

○会議出席

- ・県西地域災害医療対策会議 オンライン開催(令和6年9月28日)

概要:県西地区の災害医療対策の推進について検討

- ・小田原市立病院との連携

小田原市立病院との「災害等における協定病院間の相互支援に関する協定」に基づき、令和6年7月17日に災害等における協定病院間の相互支援に関する定例会議を実施した。

5) 褥瘡対策会議

褥瘡対策チーム活動

今年度の褥瘡対策研修は、動画視聴と体験型演習を組み合わせて開催した。知識の再確認や日々の看護ケア等を見直す機会となり、MDRPUの減少、下期には自重褥瘡発生が減少した。

下表のとおり、入院患者の約半数が褥瘡危険因子保有者である。入院している多くの高齢患者の皮膚は脆弱なため、同一患者で繰り返し発生する事例もあることから、褥瘡対策の強化を進めていく。

褥瘡関連データ

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
褥瘡危険因子保有者数	2,148名	2,206名	1,843名
褥瘡有病者数	284件	298件	216件
院外発生	168件	173件	137件
院内発生(自重褥瘡)	56件	58件	52件
院内発生(MDRPU)	60件	67件	30件
院内発生(キン - テア)	75件	91件	79件
入院数に対する褥瘡危険因子保有者の割合	50.2%	49.8%	48.7%
入院数に対する褥瘡有病者の割合	6.6%	6.7%	5.8%

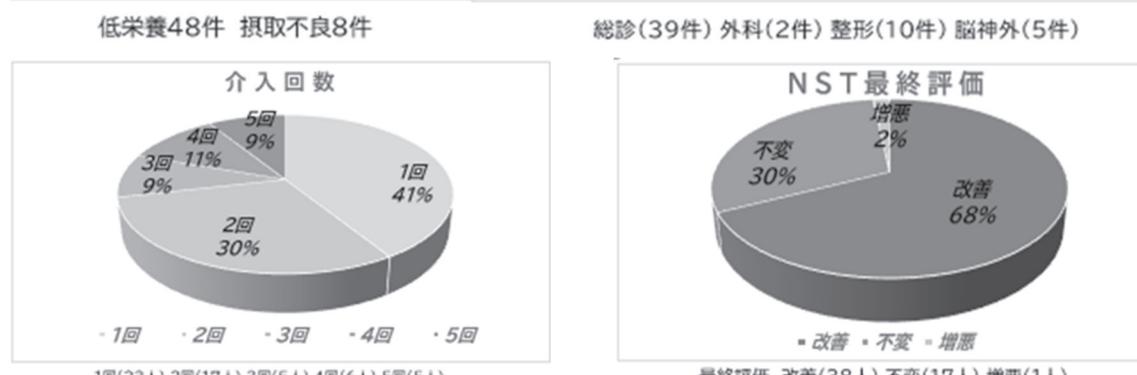
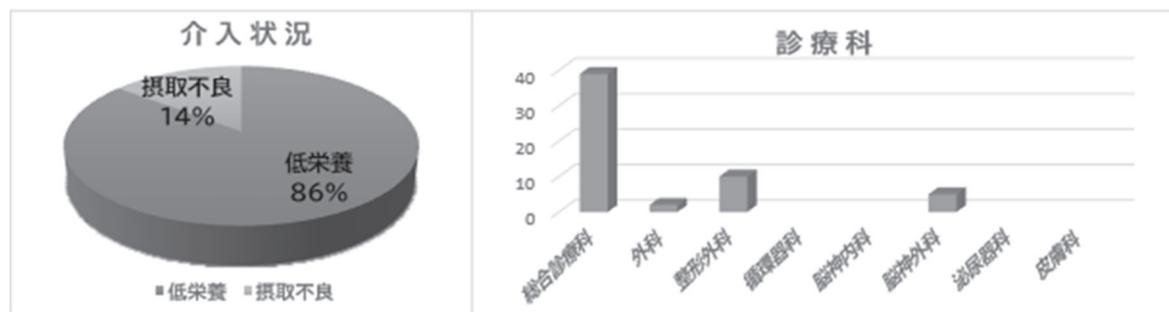
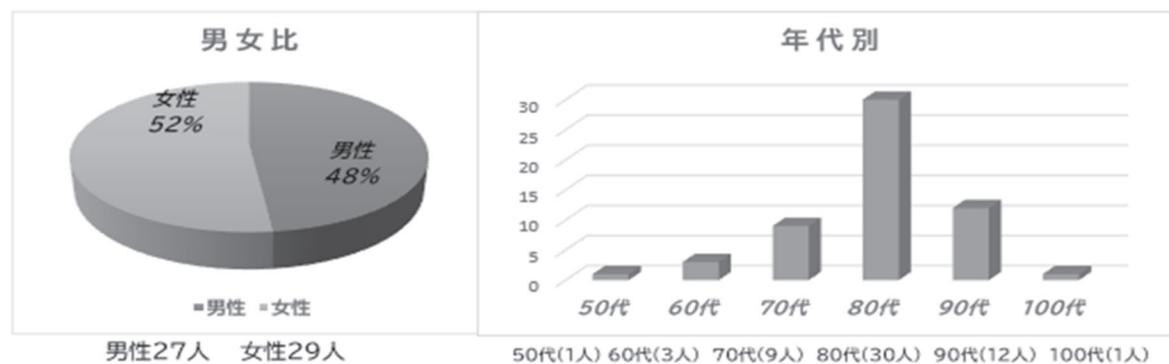
院内発生者（自重褥瘡）の割合	1.3%	1.3%	1.4%
院内発生者（MDRPU）の割合	1.4%	1.5%	0.8%
院内発生（スキン - テア）の割合	1.8%	2.1%	2.1%
褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数	996 件	981 件	729 件

6) 栄養サポートチーム（NST:Nutrition support team）活動状況

栄養サポートチーム（NST）カンファレンス及び回診の実施状況

NST医師を中心に、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士により、中高リスク者のうちNST対象者についてカンファレンス及び回診を行い、安全で効率的な栄養計画を主治医へ提案しました。

年度	実施回数	延べ対象者数(人)	病棟別延べ対象者数	2A	3A	4A	5A	5B
令和4年度	48回 (週1回)	156	人	25	0	62	43	26
			(%)	16.0%	0.0%	39.7%	27.6%	16.7%
令和5年度	47回 (週1回)	187	人	14	6	66	63	38
			(%)	7.5%	3.2%	35.3%	33.7%	20.3%
令和6年度	48回 (週1回)	121	人	33	3	36	39	10
			(%)	27.3%	2.5%	29.8%	32.2%	8.3%



7) ボランティア活動報告

写真掲示ボランティア等の団体があるが、令和6年度においては引き続き新型コロナウイルス感染防止対策のため、院内における活動を休止した。

8) 臨床病理検討会 (CPC)

第70回 CPC 令和6年4月26日 17時00分より 研修室1

総合診療科 濱 薫 先生 研修医 石井 快空 先生 病理診断科 亀田 陽一 先生

「急性膵炎により入院後、全身浮腫と重症低アルブミン血症にて病理解剖を行った症例」

出席者 23名

第71回 CPC 令和6年11月13日 16時00分より 研修室1

消化器内科 國司 洋佑 先生 研修医 二本柳 佑馬 先生 病理診断科 亀田 陽一 先生

「腸炎で入院し、退院直後に心肺停止で搬送された症例」

出席者 16名

9) 「医学講座」・「出前講座」

令和6年度 地域住民対象「医学講座」「出前講座」開催実績

回	日 時	テ マ	講 師	会 場	対象
医学 第36回	令和7年 2月15日（土）	もしかして病気！？ ～胃痛・おなか痛～	消化器内科部長 國司洋佑 栄養管理科 柴田弘美	松田町生涯学習センター 展示ホール	市民・町民
出前 第1回	5月17日（月） 10：00～11：00	「卒乳・母乳について」	3A主任看護師 下口 史助産師	開成町 小田急開成駅前ビル ぶらっとかいせい内	子育て中のママ
出前 第2回	5月20日（金） 13：30～15：00	熱中症予防について	清水智明医師	山北町健康福祉センター	健康普及員研修
出前 第3回	6月13日（木） 9：00～10：10	「子どもの病気や事故への対応について」	小児科 青木理加医師	開成町 パレットガーデン自治会館 2階会議室	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第4回	8月22日（木） 9：30～11：30	コロナ禍において児童の摂食不良及び体調不良（心理的）の事例に基づく対応	小児科 青木理加医師	松田小学校	上郡15校研究会養護部会
出前 第5回	10月10日（木） 10：00～11：00	乳幼児の病気への対応	小児科 青木理加医師	開成町 小田急開成駅前ビル ぶらっとかいせい内	子育て中のママ
出前 第6回	11月14日（木） 9：15～10：45	「子どもの病気や事故への対応について」	小児科 青木理加医師	開成町町民センター 2階 中会議室	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第7回	令和6年 1月31日（金） 10：00～11：00	「卒乳・母乳について」	3A主任看護師 下口 史助産師	開成町 小田急開成駅前ビル ぶらっとかいせい内	子育て中のママ